

労農連帯を一層強め、三里塚・ジェット闘争を貫徹しよう！

暴力・デマ・脅迫妨害[×]団結署名進む！

日刊 動力千葉

79.4.17

No. 91

国鉄動力車労働組合

千葉市要町二一八(動力車会館)
(鉄電)二二五八九・公衆(四四)二二七一〇七

①不法・不当な「執行権停止」を認めず、あくまで奥川委員長以下の地本・支部指導体制を堅持し、②革マルの暴力と引きしによる、組合ならざる徒党集団への労働の転落を阻止し、③労働の戦闘的伝統をひきつき、眞の労働組合運動を再建! 動労大改革、していくための大決意をかけた。わが「労働千葉団結署名」は今、全支部での精力的とりくみのまゝ只中にある。

しかし、「この「団結署名」の圧倒的貫徹を何よりも恐れる「本部」。一部反動的勢力は、あらゆる卑劣な妨害を加えて、必死の敵対行動に血道をあげている。

4月15日、またも「空襲ねらい」勝浦支部へ同然の空襲荒れ!

この向、幾度となく襲撃に失敗してきた「本部」。暴力集団は、4月15日の日曜の午後、とうやくスキを狙つて、私服部隊約200名をもつて勝浦支部の職場不竟討ち襲撃を企らんだが、われわれの抵抗がつ断乎たる向いの前に、ほんろうされ粉砕されてしまった。

前回(4月12日)には、バールを持って襲

一部反動的セクト「本部」の「労働型労働運動」なるものか、労働組合だと彼らは、何ゆえに、こじほどまでに「労働千葉」団結署名の成功を恐れるのか? それは彼らが牛耳ってきた「本部」の運動と組合が(千葉が声を大にして指摘してきたように)もはや、あたり前の組合ですらなく、反動的党派の暴力集団のかくねみのたしかすぎない事が鮮明にバクロされてるからである。

オーニ、デマ宣伝……「廻り・中野らの10年来の政局——脅迫・尾行・イヤガラセ・差別……

(「おも本部のデマ」) 「行きつく先は武若集団の組合——火炎瓶・爆弾を持ち出す」「組合費が値上げされ」「職場要求をとり上げず三里塚労働員との組合……」

オニ二、暴力・テロ・リーチ、駅場破壊……名の錦糸町駅、「オルグ」と称する破壊が明あす」というやり方・体質。

この様に、もはや、まともな労働運動ではなくなった「本部」・暴力集団の引きましを排し、本来のまともな労働組合・運動をとりもどすための「労働大改革運動」推進の旗印し、「労働千葉」団結署名を全員・圧倒的に実現してこつてはなりか。

「団結署名の貫徹で本当に労働運動の道を示せう!」

轟、方倉を荒して同一駅逃げのびた彼らは、わが反撃の前に、今度は退路を断たれ、袋のネズミ、偶然となり、恐怖のあまり外房線大原駅で急遽途中下車し、駅前商店街をかけまわって200本のコーンビンを買ひ、線路の碎石を大量にひろい集め武装し、一般乗客を追いやつて「占拠」した電車車両の内側に座席をはずしバリケードを築き、スライードを下し真青にうちふるえつゝ、自ら要請した(本部安藤石田、現場指揮東京地本神保)救援の公安・権力に手厚く守られて、ほうぼうのていで一路東京へ逃げ帰るという惨状をさらけ出した。確な判断で空襲に終った(のだが)の「家庭介入班」②「不一^{ヨウ}」詰所での勤務中乗務員つぶし上げ「班」③「運転士職場荒れ」班にゆかれ、たとえば運転区内に入り込んだ約100名は、空襲狙い専有の卑劣さで組合ビルをはがし、個人口才にまで手をかけ、勤務で出入りする組合員を脅迫せんと当直室まで押し入つたが果せず、はらりせに持参のマジックで壁・窓等に下卑な落書きを書き並べ逃げ帰るという愚弄をまかりなし「マジストの本性をあらわした。

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉碎せよ!